

調 査 ・ 研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名： きずな

報告者： 林 高正)

実施場所： 第 22 回 清溪セミナー (東京都内)

実施日： 平成 29 年 11 月 16 日～17 日

■目的・課題・問題事項 (調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など)

清溪セミナーは、全国各地の県市町村議会議員有志により企画・運営されている実践的セミナーです。今回は、「地域包括ケアシステムを内包したコンパクトなまちづくり～岡山県高梁市川上町の取り組み～」、「買い物困難者対策と地域活性化への道筋」、「高齢者ドライバーの運転免許返納を提案する」、「世界経済の潮流～日本経済の行方～」などのテーマで講演がありましたが、岡山県高梁市川上町の取り組みは、診療所長の菅原先生の人柄に依るところが大きいと感じました。やはり、「人」です。

■参考とすべき事項

岡山県高梁市川上町で実践されている「地域包括ケアシステム」は、最後まで生まれ育ったまちで暮らしたいという希望を叶えるために、医療・介護・住まいの複合施設を拠点とした、「医療版コンパクトタウン」によるまちづくりを提案されています。菅原先生は、時代に即した医療の提供ということをお話しされましたが、「その通り」と頷きました。

「ドアホのミクス」で一気にブレイクされた、浜矩子さんの講演は、想像していたものとは違い真面目な経済のお話でした。アメリカと中国の 2 強時代に対して日本の存在感をどうやって示すかという観点から言うと、下手をすると、日本は蚊帳の外に置き去りになるのではというものでした。ロシアも中国も日本を相手としてみていないのではという厳しい指摘もありました。

■提言・その他 (本市の施策等にどのように活用すべきか など)

今回も、福岡政行さんの講演を聞かせていただきましたが、「働け」という檄が何度も飛びました。議員も行政マンも、知恵を出して働けと！頑張っている議員から応援要請があれば、あご足代だけで日本全国、どこでも出向くとおっしゃいました。現在、福岡先生は県立広島大学の非常勤講師をされているので、来年あたり、応援要請をしようかと考えています。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

平成 29 年 11 月 24 日

調 査 ・ 研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名：きずな

報告者：徳永泰臣

実施場所：新宿区霞ヶ丘 日本青年館
第 22 回清溪セミナー

実施日：平成 29 年 11 月 16～17 日

■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）

- 講師：菅原 英次(高梁市川上診療所所長)「地域包括ケアシステムを内包したコンパクトなまちづくり」
- 講師：折笠 俊輔(流通経済研究所研究員)「買い物困難者対策と地域活性化への道筋」
- 講師：福岡 政行(東北福祉大学特任教授)「高齢者ドライバーの運転免許返納を提案する」
- 講師：浜 矩子(同志社大学ビジネス研究科教授)「世界経済の潮流～日本経済の行方」

■参考とすべき事項

- 高梁市川上町の地域包括ケアについて
まちづくりのデザイン、川上方式、在宅医療、地域でのがん患者の看取り、在宅医療コーディネートを実践され、町全体をトータルにデザインされている。
- 中山間地が抱える問題は様々で、住民生活を支えるためには、医療・福祉サービスをその中心に据えなければならない。「地域包括ケアシステム」と「コンパクトタウン」を一体化したまちづくりが必要である。
- 高梁市川上医療センターは、川上診療所・介護老人保健施設ひだまり苑・訪問看護ステーション・地域包括支援センターにより総合的な地域包括ケアシステムを一か所で行われ、スムーズな連携サービスが行われている。
- 高梁市の中でも、川上町の診療所などの医療機関は、住民アンケートでも突出して満足度が高い。

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

- 本市においても西城町は、西城市民病院を中心に、訪問看護ステーション・福祉協議会・地域包括支援センターなど、一か所で連携した地域包括支援システムを進められている。この取り組みを全市に広げ、早期に地域包括支援システムを進めて行くべきと考える。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

2017年11月24日

調査・研修報告書(会派個人用)

会派名: さがほ

報告者: 桂藤和夫

<p>実施場所: 第22回 清溪セミナー (日本青年館) ~住民主体の地方自治の確立と議会強化を図る~</p>	<p>実施日: 2017年11月16日(木)~17日(金)</p>
<p>■目的・課題・問題事項 (調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など)</p> <p>○第1日目(11月16日) 講座I「地域包括ケアシステムを利用したインバウンド対策」 岡山県高梁市川上診療所所長 菅原英次 先生 講座II「買い物困難者対策と地域活性化への道筋」 公益財団法人流通経済研究所主任研究員 折笠俊輔 先生</p> <p>○第2日目(11月17日) 講座III「高齢者ドライバーの運転免許返納を提案する」 東北福祉大学特任教授 福岡政行 先生 講座IV「世界経済の潮流~日本経済の行方~」 同志社大学ビジネス研究科教授 浜 矩子 先生</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <p>・講座Iでは「暮らせる時間」を総称して過剰(いくらでも専任が必要である)と。エンジニアも医療関係者と一語の者として、アドバイザー・フロンティアでやるべきで、最高の治療を目指すが、最悪の事態も考えなければと述べた事。</p> <p>・講座IIではクルーが別々のサービスがあり、各地の状況が聞けたこと。</p> <p>・講座IIIでは講座のテーマとは違う話だったが、双方向の幅広い話も聞けた事。</p> <p>・講座IVではパネ/ミクスに 1. 落とし穴... フロントハウスの特徴(誰も一人ではできない時代)誰も頼むにたれ(時代) 2. 綱引き... 民主主義の国家主義(光=システム⇔夜=異国)の綱引きになっているが、光には勝てないとの説明を聞いた。 3. 産業数... スモールワット経済が産業数かというこの説明も聞けたこと。</p>	
<p>■提言・その他 (本市の施策等にどのように活用すべきか など)</p> <p>今日のセミナーに参加し、今後の議員活動に活かしたいと感じた。行政能力、政策提言、コミュニケーション能力等に日々精進していく必要がある。自分自身の未熟さを知る良い機会になったと思います。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。